

式辞

雪割草（ゆきわりそう）と呼ばれるキンポウゲ科ミスミソウ属の山野草があります。根雪の下で厳しい寒さに耐え、少しずつ根を伸ばして、雪解けを待ちかねるように花を咲かせます。記録的な大雪があった今年も、今ごろ山野で、春の訪れを告げてくれているはずです。

本日の卒業式は、座席間の距離を確保するため、ご来賓はお二人に、保護者の皆様にも、各ご家庭お一人様というお願いをし、ご協力をいただきました。ありがとうございました。

卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。

不安な毎日、先が見えない日々、大変困難な中、そして未曾有の状況。

この1年間、式辞や原稿で私自身が使った言葉です。でも、2月26日、3年生の皆さんと顔を合わせ、また学年主任の伊藤先生の話聞き、

「大変だね、と心配の言葉ばかり並べてきたけれど、きっと生徒諸君は、多くの日々を、楽しみ、喜びを感じながら、元気に、そして強（したた）かに過ごしたんだろうな」との思いが心に広がりました。

本校の教育目標に「明朗闊達」という言葉が出てきます。「明るく朗らかで心の広いさま、度量の大きい些事（さじ）にこだわらないさま」という意味です。私はこの言葉が大好きです。そして皆さん一人一人は、各人それぞれの持ち味がありますが、どこかにはみんな「明朗闊達」さを備えているのではないのでしょうか。

「これから壁にぶつかったり、苦しいときもあるでしょうが、君には乗り越える力があります。」

松蔭だよりで紹介した言葉です。この「君」は、73回生一人一人です。

とはいえやはり、今年1年間が例年とは大きく違ったことは間違いありません。そんな中で、皆さんが最も感じていたことは何でしょうか？

昨年ちょうど今頃から新型コロナウイルス感染症への対応が急速に増えました。今はウイルスに対する知見も蓄積され有効な対策も共有されていますが、当時は不明なことが多く振り返るとちぐはぐな対応が多くありました。

このように、経験がないことにどう対応したら良いか。私が痛感したのは、正しい情報を集めること、それを元に論理的に考えることの大切さ、です。

現代は、情報が溢れています。

一つの事実から、正反対のことが主張されることもあります。

正しい情報を取り出すことはとても難しいです。より正確な情報を集める姿勢を持つことが大切です。

必要な情報を幅広く集める。手にした情報を鵜呑みにせず、「本当か？」というクリティカルな視点で接する。そして、いろいろな人の話に耳を傾けることも大切だと思います。

論理的に考える、は科学的に考えるとも言えます。

また、論理的に考える上で大切だと思うのは、主体的に考えることです。まず肩の力を抜いて、冷静に自分自身の腹に落ちるように考えることです。そして議論することも大事です。論理的に考えた結論は、多くの人の腹に落ちることだとも思うのです。

これからの社会は、変化が激しく、先を見通すことが難しいと言われています。このことは今回のコロナ禍と同様です。そんな中を生きる、そしてきっと色々なところで中心となって活躍する松蔭高校の卒業生の皆さんが

「正しい情報を元に、論理的に考える人」
であることを期待しています。

最後にお願ひです。

今年は集まって校歌を歌うことがありませんでした。将来、周年の同窓会にたくさんの人が集まって、みんなで校歌を歌うことができたらと思います。その場面を楽しく想像しています。

冒頭に紹介した雪割草は、豪雪地では4月頃に、固く締まった残雪を割って顔を出すそうです。自ら発するエネルギーで周りの雪を解かすのだとか。(2018年2月26日読売新聞「編集手帳」より)

卒業生の皆さん一人一人が、力強く発展していくことを、心から祈念して式辞と致します。

令和三年三月一日

愛知県立松蔭高等学校長 戸 倉 隆